

めしストップⅠ大阪

「食」を通じたコミュニケーション

大阪の特徴の一つは独特の食文化である。「日本の台所」としても知られる大阪は、食に対して驚くべき探求心がある。この食文化をきっかけとしたコミュニケーションには大きな可能性が秘められている。



バス停という拠点

バス停は大阪市内に1600か所以上あり、道路沿いに約500m間隔に点在している。バス停に屋台が隣接することで、地域のコミュニケーションの拠点となり得る場所が生まれ、バスのネットワークにより拠点がつながることで、大阪の街全体が食文化の街として印象付けられる。

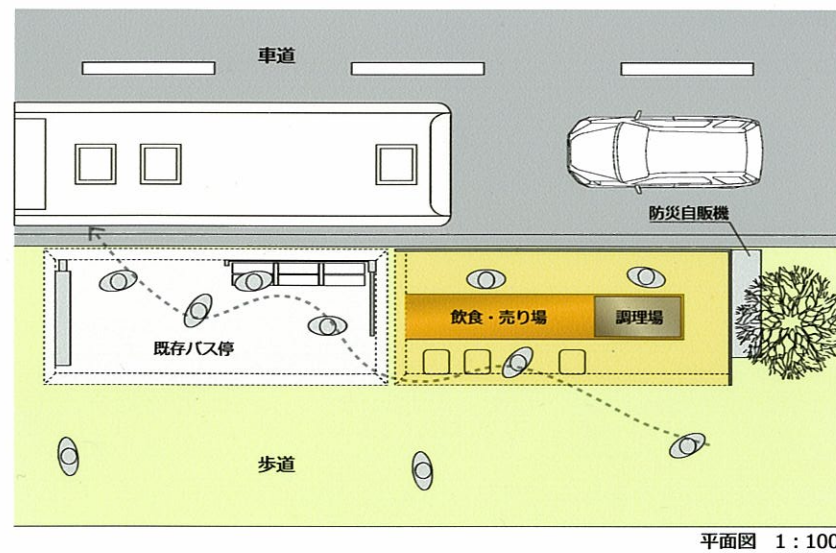


● 地価の高い場所で展開する

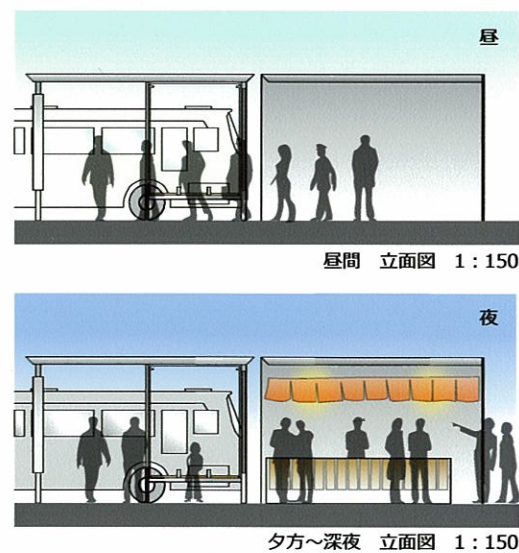


お好み焼きやたこ焼きといった大阪に多い飲食店は、屋台のような簡易な商業形態を得意とする。しかし、大阪の心斎橋・難波エリアは地価が高く、気軽に飲食店を出店できない。そこでバス停の横に屋台を配置することによって無秩序な出店を防ぎ、その地域のポテンシャルを生かすことができると考える。

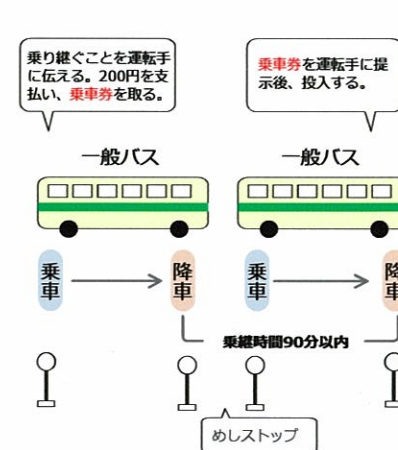
● バス停に隣接すること



バス停の横に同じスケールの底とカウンターの簡単な建物を作る。昼間はバス停の横にひっそりとたたずむオブジェのようなこの建物は、夜になるとにぎわいを生み出すコミュニティの場に様変わりする。日中、バス停の底の延長として機能しているが、夕方、バス停の横には水とガスが引かれており、簡素なつくりの底とカウンター程度に留めることによって、各地区に合った自由な店舗を出店する可能性を残すことができる。



● ハシゴする楽しさ



大阪市の公営バスでは最初のバスを降車してから次のバスを降車するまでの間90分以内なら無料で乗り継ぎが可能である。この制度を有効に利用し、帰宅時に途中下車し買い物・食事を済ませ再び帰路につくことができる。

● 市バスの観光利用



大阪府のホームページによればここ20年でバスの利用者は113万人から89万人へと20%減しており、その対策が求められている。観光事業の一環として大阪の食文化を発信するツールの一つとして「めしストップ」を企画することで、バスの有効利用と大阪の街の活性化につながる。

● 防災・防犯の拠点



一定間隔に点在するバス停の各所に付随する屋台に人が集まることで、防犯の拠点が生まれる。また、大きな災害が起きた場合には、道路沿いのインフラを先行して整備することで水道・ガスの拠点となり、万が一の際炊き出し等の拠点として機能することができる。普段からのネットワークを利用し、スムーズでより早い援助物資の分配が可能となる。